二〇一八年一一月二三日

池めぐり樹形たしかめ松手入　さつき
野地蔵へ蓑笠つけて冬支度　智恵子
一斗缶並べ煎餅屋冬温し　うつぎ
ふかし藷吹いて勤労感謝の日　三刀

二〇一八年一一月二二日

山深き荒神さんへ留守詣　たか子
まづ落ち葉掃いてグランドゴルフかな　さつき
幽閉の勘兵衛思ひ落葉踏む　よう子

二〇一八年一一月二一日

漁り火に銀波ひろごる冬の沖　やよい
山と積む納め火箸に冬日燦　満天
岩床もあらはに涸るる御祓川　宏虎

二〇一八年一一月二〇日

女子寮の有刺鉄線鵙の贄　さつき
結界の内外隔てず銀杏散る　菜々
抽んでし皇帝ダリア庭小春　こすもす
一句得て句帳に栞る散紅葉　満天

二〇一八年一一月一九日

石庭の箒目しるき神の留守　ぽんこ
鎖場を過ぎて見下ろす紅葉渓　さつき
園丁に草の名問うて小春かな　たか子

二〇一八年一一月一八日

暮急ぐ峡の岨道すがれ虫　はく子
天蓋の紅葉影さす切り通し　智恵子
文添へて卒寿の父へ新走　うつぎ
眼帯の取れてこれほど石蕗黄なり　なつき

二〇一八年一一月一七日

鬼の面夕日に染まる里神楽　さつき
厚き雲切れて一条冬日射す　明日香
倒木の折り重なりて川涸るる　たか子
夕照の京の疎水に鴨の影　せいじ
ほかほかの焼き芋母と半分こ　智恵子

毎日句会みのる選・二〇一八年一一月二五日